

さあ、水辺へいこう。トンボに会いに！

万博公園内の池や川の水面近くをトンボが飛んでいます。よく見かけるのはシオカラトンボですね。春から秋にかけての長い期間、見ることが出来るトンボです。

なわばり シオカラトンボのオスは、自分が気に入った水辺になわばりをつくり、その中の獲物やメスを独り占めしようとします。そのため、自分のなわばりに他のオスが入ってくると追いはらいます。水辺では、オスのなわばりがいくつも重なっているのので、オスどおしの争いがたえないようです。

交尾・産卵 自分のなわばりに入ってきたメスと連結し交尾をすると、メスが卵を産む間、他のオスにメスをとられないように、メスの近くで見張っています。メスは飛びながら卵を産みます。おしりの先を水面につけ、おしりを前に振り上げて、水と一緒に卵をばらまくように産みます。シオカラトンボの卵は、表面に粘り気があるので水草にくっつきませんが、水底に沈むこともあります。

ヤゴ シオカラトンボの卵は、6日ほどで幼虫（ヤゴ）になります。水の中で小さな虫などを食べて大きくなり、14回くらい脱皮を繰り返します。長く伸びるあごを使って獲物に噛みつくのです。大きいものはオタマジャクシなども食べるそうです。

羽化 ヤゴは水の底で冬を越し、春から夏にかけて、成虫になります。草や木を伝って水の上に出ると最後の脱皮（羽化）をします。夜中から始まり、明け方までかかり、朝日がさすころ空へ飛び立ちます。

3週間の命 シオカラトンボは、成虫になって3週間ほど生きます。その間に、またオスとメスが出会い、交尾をして、卵を産み、命が受け継がれてゆくのです。1年をかけて繰り返されるドラマが水辺にあるのです。

自然観察学習館

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1

TEL:06-6877-6923

✉ アドレス: expo70gakusyu@cronos.ocn.ne.jp



シオカラトンボ



オニヤンマ



シオカラトンボ幼虫



オニヤンマ幼虫

ヤゴの絵「トンボのすべて」
トンボ出版より

5年をかけてトンボに？

☆ヤゴの時代が5年！：シオカラトンボは一生が1年ですが、オニヤンマのヤゴは、なんと5年もかかって羽化します。生まれたときは体長が2mmくらいだったのが、羽化する前は体長5cmくらいになるわけです。

☆トンボは一生肉食性：学習館では、園内の池や水路で捕ったいろいろなヤゴを水槽で飼育し、羽化すると外へ放しています。大きいヤゴには小魚やミミズを、小さいヤゴにはミジンコを与えています。水槽内でも生きた小動物を与えるのです。

☆長く伸びる鋭いあご：下の写真はオニヤンマのヤゴです。一度食いついたら、どんなに小魚やミミズが暴れても離しません。

☆環境をはかる指標：ヤゴが見つかるということは、万博の池や水路がこの1～5年の間、安定していい状態だということを示してもいるのです。



小魚



ヤゴ

ミミズ

【今月の行事】

13日(土) 野鳥観察会

13日(土)・27日(土)

木や竹・木の実を使った工作

14日(日) 水辺の生物観察会

23日(火) セミの羽化観察会

(事前申込行事)